

年度 2007 学期 後期	曜日・校時	水 4	必修選択	選択	単位数	2
授業科目/(英語名)	人間と文化 (西欧文化の古層) Humanity and Culture (Romantic Tradition in European Culture)					
対象年次	1・2年次	講義形態	講義	教室		
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類		人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	担当教員: 永嶋哲也 / Eメールアドレス: tetsu@lit.kyushu-u.ac.jp / 研究室: 非常勤講師控室 / オフィスアワー: 講義の行なわれる日(後期の毎週水曜日)午後4時から4時30分まで、非常勤講師室にて					
担当教員(オムニバス科目等)						
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標	<p>授業のねらい: この講義では、西洋とくに西ヨーロッパの中世を中心に、古代や中世後の恋愛に対する考え方を考察することで、わたしたちの文化をより深い層から理解することを目指す。 つまり、西洋文化という流れの直系にない日本文化に属するわたしたちだからこそ理解できる西洋の側面があるだろう。逆に西洋文化を知ること、西洋文化が多く流れ込んでいる現在のわたしたちの文化を深く知ることができると思う。</p> <p>授業方法: オーソドクスな形式の講義。つまり要点を板書し、それについて説明する。 また学期中に数回、授業中に授業内容に関する感想・意見などを書いてもらい、それにコメントをする。</p> <p>授業到達目標: 自文化に対して外在的視点を持ち、文化的な価値について客観的に考えることができるようになる。</p>					
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)	<p>授業内容(概要) わたしたちの文化を理解するために、文化の前提していること、つまり「恋愛」に対してわたしたちが持つ理想像というものを取り上げる。 例えば、かつて「恋愛は12世紀の発明である」と言ったフランス人歴史家がいた。現在、われわれが永遠普遍的価値だとさえ考えがちな個人的な男女間の恋愛というのは、西欧という限定された地域の、12世紀という限定された時代の、封建制という特定の身分社会によって発明された文化的人工物なのだという主張である。わたしたち日本人からすればバカバカしい考えのようにも思える。それなら日本において「恋愛」は明治の文明開化のときに輸入されたということになってしまう。だが実は、それほどバカげた意見ではない。 時代や地域が異なっても同じ人間であれば共有できる何かもある、逆に時代や地域によって大きく異なる何かもある。そういうことについて、恋愛観の変遷を概観することで考察しよう。</p> <p>授業スケジュール: 01 回目 イントロダクション(わたしたちの文化と恋愛観) 02 回目 愛の発明 03 回目 神的な狂気 プラトンの哲学著作 04 回目 家庭的な慰安 ホメロスの叙事詩 05 回目 陽気な肉感性 アリストパネスの喜劇 06 回目 災厄を生む狂気 エウリピデスの悲劇 07 回目 ウェルギリウスの叙事詩 08 回目 恋愛のパロディ オヴィディウスの教訓詩 09 回目 恋愛の露悪趣味 古代ローマの恋愛詩 10 回目 中世の愛 恋愛詩の系譜 11 回目 騎士物語 12 回目 キリスト教の神的愛 13 回目 ルネサンスの愛 ダンテの叙事詩 14 回目 ペトラルカの手記 15 回目 定期試験 又は 通常授業</p>					
キーワード						
教科書・教材・参考書	教科書は特に指定はしない。必要であればプリント等の資料を適宜用意する。 参考文献は講義中紹介する。					
成績評価の方法・基準等	学期中に数回、授業中に授業内容に関する感想・意見などを書いてもらう。その内容でもって講義に対する積極性という平常点を判断する(配点20%)。 学期末試験は記述形式で二問。一つは授業内容の要約(配点40%)で、もう一つは自らの意見を展開してもらう(配点40%)。					
受講要件(履修条件)	基本的に、文化や歴史に関心があり、文学に興味を持ち、哲学や宗教に拒絶反応を示さない者にだけ受講して欲しい					
本科目の位置づけ/学習・教育目標						
備考(準備学習等)						